

B3 型麻疹ウイルス感染症の本邦初報告例

福岡大学医学部腫瘍血液感染症内科 戸川 温

日村 和夫

福岡大学病院感染制御部 高田 徹

福岡市保健環境研究所保健科学課 宮代 守

国立感染症研究所ウイルス第二部第1室 駒瀬 勝啓

第 83 回日本感染症学会西日本地方学術集会

タイのバンコクから帰国後、40°Cの発熱、発疹（丘疹）が出現した。初診時の症状として、体温 39.7°C、全身の融合傾向を伴う丘疹、Koplik 斑様の国内炎、上気道炎、頸部リンパ節腫脹、肝機能障害、下痢、血尿、蛋白尿が認められた。初診時の抗体検査では麻疹 IgG 60, IgM 7.71 で陽性であり、約 2 週間後の再検査では IgG 30.8, IgM 7.91 と IgG の有意な上昇を認めた。臨床症状および検査所見より麻疹が疑われたため、RT-PCR 法による遺伝子検査を実施した結果、N 遺伝子が陽性であった。その RT-PCR 増幅産物を使用して塩基配列を決定し、系統樹解析を行ったところ、B3 型麻疹ウイルスであることがわかった。日本では、B3 型麻疹ウイルスが検出された報告は過去に無く、本症例が初めてである。B3 型は主にアフリカで流行している株であるが、アジアでの報告は少なく、現在までにタイでの報告はない。しかし、今回の症例はタイへの渡航歴があり、潜伏期間を考慮すると、タイからの輸入例であると考えられ、タイでも B3 型が存在している可能性があると考えられた。